

2013学年度 米山奨学生オリエンテーション報告

米山委員会 委員

口野 孝 (大阪東RC)

日 時:2013年4月10日

会 場:ヴィアール大阪

参加者:高島ガバナー、若林バスターガバナー、田中委員長、地区委員、米山学友、新規米山奨学生、世話クラブカウンセラー、会長、幹事、米山委員長 他

本年度の米山奨学生として選考委員会に合格した奨学生を対象に、最初の行事であるオリエンテーションが開催されました。オリエンテーションに先立ち、西谷副委員長から競争率2倍の難関から選ばれた29名の奨学生に、本年度は日本全体で723名、当2660地区は29名の新奨学生と昨年から10名の奨学生で計39名の支援をすることになりました、との挨拶があり、米山奨学生の心得、米山奨学金の意義、米山学友会、奨学生のバッチ、桜一将来に向けてロータリー精神の継続等の話がありました。

続いて、本番のオリエンテーションが開会となり、田中委員長の司会のもと、高島Gのご挨拶、平和の日本の良さの認識、多くの友達を作ることが世界の友達であり、世界の平和につながります。米山を終了しても交流を続けそれぞれが成長し世界の平和に貢献することを期待します。

引き続き、田中委員長によるロータリーの歴史、米山記念事業の意味、米山は日本だけの組織であり、日本の中の34地区が米山の支援をしている。民間では日本最大の奨学生支援である。米山梅吉さんは、平和日本を世界への信念でいろんな分野に寄付をして貢献をされている。もともと米山梅吉翁は貧困な家庭に育ち、自分の

経験が乏しかったため留学生の支援を始められた。

その後、パワーポイントによる米山の精神、心得、年間のスケジュールの話があり、続いて奨学生とカウンセラーの自己紹介をして奨学生から「確認書」を提出してもらい、正式に「米山奨学生」となり奨学生の喜びはひとしおの感があり、漸く緊張感が取れた様子でありました。

最後に委員長から、「貴方がしてほしいと思うことを他人にしてください」と結ばれた。

以上で、第1部のオリエンテーションが終わり、会場を隣の懇親会場に移し、司会を福田委員が担当され、絶妙な司会のもと、第1部とはがらりと変わった和やかな雰囲気での懇親会が始まりました。

1部の講評を含め、若林バスターガバナーのご発声で乾杯のもとそれぞれのテーブルで、料理を食し、アルコールも入り、懇親は最高潮になりました。途中奨学生の「2分間スピーチ」で自己紹介、将来の夢等、次々に発表され大変活発なスピーチでありました。中でも母国への貢献、人と人が笑顔になれるような仕事、奨学生に選ばれた感謝それぞれが立派な日本語で抱負を述べられました。

最後に、西谷副委員長の閉会の言葉で、オリエンテーションは無事終了しました。

